

台

二年
画数 5
筆順 ムム台
オン
ダイ・タイ

成り立ち



「台」は「人が口をあけて、よるこぶ」こと」をあらわした字です。「土」と「高」と「至」とをくみあわせて、「土」を「至」つて、「高」つみ上げた「見はらし臺」をあらわした「臺」と音がおなじなので、この字のかわりにつかわれるようになりました。

「台は「臺」の仮借である。土を人工的に積み上げて作った「見張り台」が本義だが、その目的で作った建造物も台という。例灯台。高くて平らな物をのせる道具も台という。例踏み台。高くて平らな土地をいう。例天台。また、「土台」という使い方から、「物事の基礎」の意味で、「台帳」などという使い方もある。」

使い方

▽たてものは、そこからは見えない土台が、いちばんのもことになるだいなものです。台本や台帳の台という字は、この土台といういみの字です。

熟語例

▽台地（台のようになってる土地。まわりより高くなっている、そのぶぶんがたいらになつてゐる土地のこと。高台ともいいます。）

▽台形（台のような形。ふみ台は上のめんと下のめんとが平行です。台のように、むかいあつた二くみの辺のうち、一くみが平行になつてゐる四辺形のこと。）

▽土台（「土の台」といういみのことば。たてものの基礎のこと、この上になつてものをのせるので「台」といいます。いまは、コンクリートがつかわれますが、むかしは土をつきかためただけでしたから「土台」といいました。）

▽台帳（しばいやえいがのせりふやしぐさをかいた本のこと。しばいやえいがはこの上になりたちます。）

▽台帳（土台になる帳簿。元になる帳簿なので、「元帳」ともいいます。）

使い方

▽行つたことのない地方へ行くばあには、地図をかならずもつていくことです。

▽この土地は、もと農地だったものを宅地にしたものので、すから、にわにやさいがよくできます。

熟語例

▽土地（農地、宅地、山林などの総称。地球の上の土のあるところのすべて）

▽農地（農業をするためにつかう土地。田や畑）

▽宅地（住宅用の土地。いえをたてるための土地）

▽下地（下の土地。いえの立つてゐる、その下の土地のこと。どんなりっぱないえも、その下に土地があつてはじめてできる。そのように、ものごとをなりたせると「いちばん大事な」「いちばんはじめのしごと」のいみにつかわれます。）

▽地方（「ある方面の土地」といういみのことばで、「ある一部の土地」のこと。「いなか」のいみにもつかわれます。）

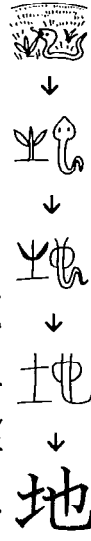
▽地図（土地のようすをかいた図）

▽地面（土地の表面。「土地」のいみにつかいます。）

地

二年
画数 6
筆順 ナナ地
オン
チ・ジ

成り立ち



へびのかたちをあらわした「也」と、「土」とをくみあわせてつくつた字です。へびのようにうねうねとなみうつてゐる「大地」をあらわした字です。

「大地」「土地」というようにつかわれます。チは漢音で、呉音はにごつて「ヂ」となりますが、かくときには「ジ」とかくことになっています。

人の立つところですから、「地位」というようにもつかわれます。また、「地声」「下地」というつかいかたもあります。